

## 【キーワード】

〔施設種別〕 高齢者施設 障がい者施設 子ども施設 住宅 ()  
 〔運営主体〕 市区町村 法人 NPO 個人 (補助金) 内閣府 国土交通省 厚生労働省 ()  
 〔建物形式〕 1棟単体型 複数棟集合型 団地型 (建物状況) 新築 増築 改修 一部改修 既存  
 〔対象者〕 高齢者 障がい者 子ども ファミリー 多世代



写真1. 店内写真

養蚕小屋をリノベーションして作られた古民家カフェ。養蚕小屋から民家への改修を経た後、オーナー自ら壁をペンキで塗るなど改修に携わり、古民家カフェとして生まれ変わった。土間をあがると、客席として畳の部屋に座卓、元縁側であった場所に机と椅子があり、子ども連れから高齢者まで多世代が居心地良く過ごせる空間である。縁側の先にある庭は緑豊かで子どもが遊べる空間にもなっている。

## ■施設概要

所在地：島根県江津市後地町 2398

アクセス：JR 山陰本線（米子 - 幡生）浅利駅 徒歩 11分

施設種別：古民家カフェ

運営主体：個人

開設年：2011年

営業日：毎週 水・木・金・土

営業時間：am11:00~pm18:00

建物構成：地上2階

構造規模：木造

スタッフ人数：アルバイトを含み5~6人程度

訪問日：2022年3月28日

インタビューでお話を伺った方：多田十誠氏、奥様

訪問者：山田あすか、土田寛、荻原雅史、村川真紀、池上柚月

(こちらの記録をベースに、以下にまとめる)

## 1. 島根県江津市について

島根県江津市は、山陰地方の中では最も人口が少なく、県内で最も面積が小さい市である。また、東京からの移動時間距離が全国で最も遠い都市としても知られている。高度経済成長期以降は、都市部への人口流出が増大し、年々人口減少が進んでいる。一方で、中国地方一の大河



写真2. 位置情報（Google マップより）

浅利駅周辺から山側にやや入った、日本海と山に挟まれた風光明媚な場所に場所に風のえんがわは位置している。



写真3. 土間空間①

や海水浴場などをもち、多くの緑で囲まれた、自然あふれる地域である。風のえんがわも、日本海が近く、山と海に囲まれた場所に立地している。



写真4. 土間空間②

元は土間だった場所。靴のまま入れる入り口付近の客席であり、ピアノや、本棚、チラシの棚があるほか、多田氏の最も気に入っていておすすめの間である暖炉がある。暖炉は冬場は実際に使用している。奥様は、この空間を一段下がっている場所が舞台のような空間で気に入っている。

## 2. 古民家カフェ開設の経緯

### ■古民家カフェが出来るまで

建物は元々養蚕小屋が多い地域だったこともあり、養蚕小屋として利用されていた。その後一度民家に改修された後、現オーナーである多田氏により今のカフェに改修された。普通の昭和の家屋であった内外装を古民家の様相に戻しながらカフェへの改修を行っている。

### ■江津でカフェをすることにした経緯

多田氏は自身が自然豊かな地域で育った経験を踏まえて、そういった環境がある地域で子育てをしたいという思いがあった。そこで、各地での料理人としての修行の



写真5. キッチン

料理人として豊富な経験を積んだ多田氏が、自身が最も効率的に動けるよう、段ボールなどで1/1スケールの模型を作成して配置を検討するなど、細部までこだわって仕上げられている。

後に、地元である島根に戻り、自身の経歴と経験を活かして、江津でカフェを開業した。

#### ■ Go Gotsu 「創造力特区へ」の関わり

江津市役所が地域活性化のために、「創造力特区へ」というスローガンのもとをはじめたプロジェクトが「Go Gotsu」である。自らの創意工夫で新しいものを創り出す取り組みで、集会や話し合いなどといった自主的な活動を行っている。特定のグループがあるわけではなく、江津の住民や多田氏のように江津で商売を営む人々の想いがつながって自然と進められている。市役所に見守られた自然なプロジェクトである。



写真6. カウンター  
メニューが並べられている他、お菓子やケーキ等も置かれている。

### 3. 利用層や運用について

#### ■利用者の年齢層

県内からの利用者は、共働き世帯が多いことも影響し、育休中の方が子連れで訪れるなどしている。また、仕事を引退された50～70代の主婦層の利用が多い。県外か



写真7. 2階



写真8. 元々たばこの乾燥室だった場所①



写真9. 元々たばこの乾燥室だった場所②

らは、近くに水族館があるため、広島などからの子連れ世帯が水族館に訪れた際に立ち寄られている。また、ドライブ先として風のえんがわに訪れる利用者も多い。

#### ■新型コロナウイルスによる変化

江津市では、2021年1月頃まで新型コロナウイルスによる大きな影響は見られなかった。そのため、対策や客席の距離や数などの調整はしつつも特別な大きな変化は感じられなかった。市街からやや離れた立地で営業している中で、ホッとしたい人や、他者と話がしたい人など、利用者からの多様な需要に触れ、コロナ禍以前とは異なった需要が発生していると感じた。店の営業自体に大きな変化はなかったが、店の地域の中での役割などについて多田氏夫妻の考え方が新たになる機会でもあった。

#### ■地域とのつながり

常連の利用者からは「ここに来ると癒されて自分が元に戻れる」といった声もあり、利用者や地域の人々にとっての憩いの場として定着している。また、移住してきた人が新しく地域の人と関わりを持つ契機となる交流が生



写真10. 外観写真

まれる場でもあり、カフェでありながら、地域のコミュニティスペース的な場所でもある。

## 4. 空間のしつらえ

### ■カフェだけでない場所

カフェとしてオープンし、利用されてきたが、オープンから10年の間に、活動場所として風のえんがわを提供する機会が増えている。カフェの客としての継続的な利用や、カフェで発生した新たな交流をもとに利用者が「ここでだったらできるかも！」と思いつき、活動場所としての利用に繋がっている。これまでに、子ども食堂、教室、子どもと野菜を食べるイベントなどの企画があり、客席部分の利用からキッチンスペースの貸出まで、場所提供の形も様々である。また、子ども食堂などは継続的にこの場所を利用している。多田氏夫妻も元々ゆとりあるスペースを地域に向けて有効活用したいと考えていたが、飲食業との両立が難しい中で、利用者側から活動のために場所を借りたいという希望があり、場所を貸し出せることを喜ばしく思っており、また、当初の想像以上に活用の幅が広がっている。元は飲食の場だけであったカフェが、居場所としての役割をもつようになったことなど、多田氏夫妻も意図していないことがら起こる場となっている。

また、次項の空間のこだわりにもあるように、おしゃべりすぎない、程よく生活感のある馴染みやすい空間が、民家の縁側が持っているような緩く人々を繋げる、気軽に利用できる空間として認知され、地域の“えんがわ”として利用されている。

### ■空間のこだわりとお気に入りの設え

おしゃべりすぎず、きれいすぎないような場所にするこ  
とで、子連れでも気軽に来れるような場所となっている。客室のテーブルや椅子なども全て異なった什器を利用しているほか、床座で畳に座れる場所もあれば椅子座で気に入った椅子やテーブルを選んでくつろげるなど、居場所の選択ができるよう工夫されている。また、カフェ空間だけでなく、雑貨の展示ブース（写真11）など、地域との繋がりがみられる場もある。また、客席もある隣接



写真11. 雑貨の部屋



写真12. 子どもの遊び道具

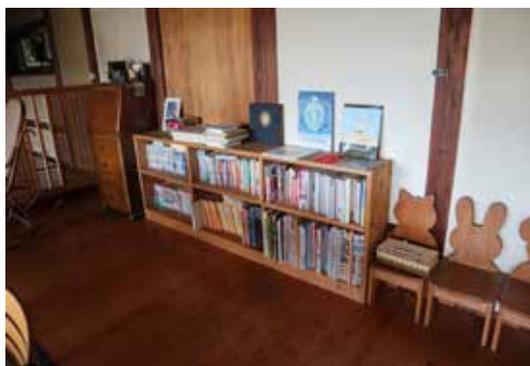


写真13. 子ども用の椅子と本棚



写真14. 2階の窓から見える木蓮



写真15. 外の入り口

草木が茂り緑に囲まれた入り口。元々は竹藪だった場所を陽が入るよう工夫して剪定している。



写真16. 入り口の看板

する離れのような建物（写真8）は、家主が事業家であった背景もあり、たばこ生産を営んでいた時代にたばこの葉の乾燥小屋であった。6人掛けのテーブルのある空間は屈んで入る設えで、たばこ葉乾燥小屋当時に火を起こしていた側（写真9）にはカウンター席が並ぶなど、多様な空間がある。

運営者等が「特に気に入っている」のは、場所と言うよりもそこから見える「風景」である。冬は暖炉の前、春は2階の窓から見える木蓮の木など、季節によって異なる（写真14）。庭は年に数回手入れを行うくらいで、毎日手入れをしているわけではない。元々カフェになる前は、竹藪になっており陽も入らず、風も通らなかった。しかし、残せるものは残しつつ「風のえんがわ」という名の通り、風が通るような剪定を行い、空気が滞らないようにしている。また、ブランコなどがあり子どもが外で遊べる空間にもなっている。こどもが遊べる公園が遠いため、子どもが自然と一緒に育っていけるような場所として整備している。

#### ■大変なこと・良かったこと

大変なこと、楽しいこと、どちらも暮らしと仕事の差がない点である。大変なことも多いが、仕事として頼まれて、割り切ってやっているわけではなく、暮らしと思いとやりたいことが一体化して日々過ごしている。

#### ■今後の展開

「風のえんがわ」をつくる前に、子どもたちに残せる資産として農業をはじめた。カフェの営業とあわせて、田畑をつくり、作農・収穫した作物をカフェで調理して食べる流れを想定していたが、カフェ営業との兼業は難しく、現在は休止中である。しかし、今後改めて農業をはじめたいと考えている。また、近くに牧場の採草放牧地があった経緯から、馬を飼育し、ホースセラピーを行いたいと考えている。

（東京電機大学 池上柚月、村川真紀 2022.5.25）